

よつば

第7号



広報誌「よつば」について

東京慈恵会医科大学は4つの附属病院を有しています。「四つ葉のクローバー」のように4病院が有機的につながり合い、力を合わせ、患者さんを中心とした医療を実践していくという思いを込め、誌名としました。



Contents

特集

「附属病院(本院)救命救急センターの本格稼働」

東京慈恵会医科大学附属病院 救命救急センター 診療部長 田上 隆

TEAM JIKEI ～全ては患者さんのために～

病院を支えるコメディカルの紹介(放射線部編)

Jikei History Vol.6

評伝 学祖 高木兼寛 ―握手で迎える兼寛校長―

「附属病院(本院) 救命救急センターの本格稼働」

救命救急センターが新しく生まれ変わりました

～EICUの稼働・初療室の拡大・救命救急士の配置など、より迅速で安心な体制に～



東京慈恵会医科大学附属病院
救命救急センター
診療部長

田上 隆

Takashi Tagami

救命救急センターとは？

救命救急センターは、交通事故や転倒などによる大ケガ、心肺停止、急な意識障害、重い感染症、激しい腹痛など、命に関わるような重症の患者さんを対象とした特別な医療施設です。医師・看護師・救急救命士・薬剤師・技師などがチーム一丸となり、24時間365日いつでも対応できる体制を整えています。ただし、救命救急センターは、外来のようにどなたでも直接受診できる場所ではありません。地域の救急隊が患者さんの状態を見て「この方には特別な治療が必要」と判断した場合に、当院に搬送される仕組みです。そのため、患者さんご自身やご家族の希望で直接受診先として選ぶことはできませんが、限られた重症の方々に特化した専門チームが、万全の体制で準備しています。

当センターでは、救急医療の専門医に加えて、外科や整形外科、脳外科、麻酔科など、他の診療科の資格も持つ医師が一緒に働いています。たとえば「救急の専門医」でありながら「外科の専門医」でもある、というように、複数の分野の専門知識を持



救急の専門医に加えて、外科・整形外科・脳神経外科など、複数の専門分野をあわせ持つ医師がチームで診療にあたっています。手術や集中治療が必要な重症の患者さんにも、それぞれの専門知識と経験を活かして、連携しながら全力で治療を行っています。

つ医師が多数在籍しています。これにより、緊急で手術が必要な場合でも、救急の場ですぐにそのまま手術に対応できる体制が整っており、患者さんにとってもより安心・安全な医療を提供できるようになっています。

EICU(救命集中治療室)が新たに稼働

2025年3月からは、重症の患者さんに集中的な治療を行う「EICU(救命集中治療室)」が本格的に稼働を開始しました。

2025年春より、東京慈恵会医科大学附属病院では

「救命救急センター」の体制がさらに充実し、本格的な運用が始まりました。

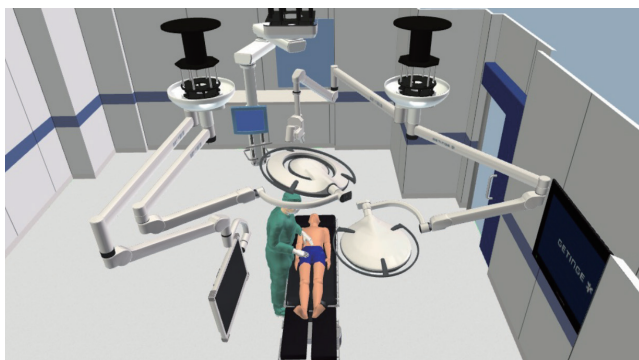
これまで以上に迅速で質の高い医療を、
重い病気やケガをされた方に確実に届けることを目指し、
さまざまな取り組みを行っています。



ここでは、心肺停止からの蘇生後や大きなケガ、重い感染症などの方を対象に、専門スタッフが24時間体制で細やかな治療・管理を行っています。より専門的で継続的な治療が提供できることで、患者さんの回復を全力で支えます。

初療室が“その場で手術ができる空間”へ

救命救急センターに搬送された患者さんは、まず「初療室」で診察や応急処置を受けます。今回の体制強化により、この初療室に手術設備を備えた新たなシステムが導入されます(2025年10月完成予定)。これにより、大きな出血をともなう外傷など、「時間との勝負」となる場面でも、その場ですぐに手術を始めることが可能になります。手術室が空くの待たずに治療ができることで、命を救う可能性がさらに広がると期待されています。



2025年10月に完成予定の救命救急センター初療室(手術室)。
緊急手術が必要な場合でも、搬送直後からすぐに対応できるよう、
専用の設備を整えた高機能な空間です。

「病院救命士」が活躍しています

2025年からは、「病院内で働く救急救命士」の配置が始まりました。病院の中で、医師や看護師と協力しながら初期対応や記録、搬送支援などを担っています。救命救急士が病院内に常駐することで、患者さんの搬送から初期治療への移行がスムーズになり、診療の質もさらに向上しています。

新たな講座体制で、より高度なチーム医療へ

2025年3月には、本学の救急医学講座が再編され、「救急災害医学講座」という新しい体制になりました。この講座では「救急医療分野」と「危機管理・救命分野」という2つの専門チームが連携し、災害時の対応も含めた総合力のある体制を築いています。日常の診療だけでなく、万が一の災害や多くのケガ人が同時に発生する事態にも、柔軟で的確な対応ができるよう備えています。

最後に

このように、私たち東京慈恵会医科大学附属病院 救命救急センターでは、日々進化を重ねながら、命を守る最前線での医療を行っています。どんな時でも、どんな状態でも、患者さんご家族が安心して頼られる医療を目指し、これからも体制の強化と医療の質の向上に取り組んでまいります。



TEAM JIKEI

～全ては患者さんのために～

病院を支えるコメディカルの紹介(放射線部編)

病院を支える医師以外の職種(コメディカル)について、ご紹介するコーナーです。

5回目を迎える今回は、放射線部の業務をご紹介させていただきます。



附属病院(本院)
放射線部
技師長
平川 英滋
Eiji Hirakawa

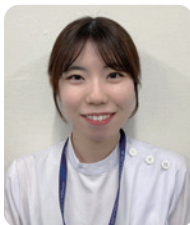
放射線部では「すべては患者さんの笑顔のために、進化し続ける放射線部を構築する」をビジョンにかけ、診療放射線業務に取り組んでいます。

すべての放射線業務において患者ファーストの医療の実践に努めています。

救急医療

● 救急医療における 診療放射線技師の役割

救急医療の現場で診断に有用な画像を迅速に提供し、初期対応の支援を行います。専門資格を持つ救急撮影認定技師も在籍しており、豊富な知識と経験を活かして医師や看護師と協力し、チーム医療の一員として貢献しています。救急医療で求められる柔軟な対応力と高い撮影技術で、迅速な診断と治療に貢献しています。

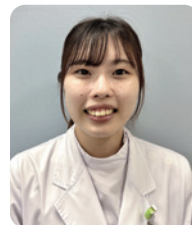


附属病院(本院)
田浦 星来
Seira Taura

画像検査

● 画像検査と医師への 画像提供

X線撮影やCT、MRI、超音波などの検査で体の中を画像として映し出し、病気やけがの有無、その広がりや治療の効果を調べます。これらの検査は、病気の早期発見や治療方針の決定、そして経過を見守るうえでも大切な役割を担っています。私たち診療放射線技師は、検査を安全・正確に行い、信頼できる画像の提供に努めています。



葛飾医療センター
阿相 琴巳
Kotomi Aso

超音波検査

● 超音波検査における 診断のサポート

超音波診断は、音波を使用して、体内の臓器や血流状態をリアルタイムに観察する検査です。放射線による被ばくがなく、体への負担も少ないため、乳幼児からご高齢の方まで安心して検査を受けられます。腹部や血管、甲状腺、乳腺など幅広い部位の検査に使われ、医師の指示のもと、診断に必要な情報を提供しています。

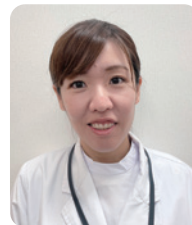


第三病院
池部 翔子
Syouko Ikebe

放射線治療

● がん治療の一翼を担う 放射線治療

放射線治療は、高エネルギーの放射線でがん細胞の働きを抑え、がんの増殖を抑える治療法です。手術や薬物療法と組み合わせることも多く、痛みが少なく通院で行えることも多いのが特徴です。診療放射線技師は、医師が立てた放射線治療計画に沿って、安全で正確な照射を行い、患者さんに寄り添いながら治療を支えています。



柏病院
津久井 綾
Aya Tsukui





Vol.6

握手で迎える兼寛校長

高木兼寛が慈恵の学生にもとめたのは、人間味のある、病人の気持ちのわかる医師に育つことであつた。それには先ず学生のうちから品性ある物腰(身のこなし、ことばつき)と服装をしていなければならなかつた。

兼寛校長は朝7時になると、もう学校の校門に立っていた。そして登校してくる学生の一人ひとりと握手をするのである(だから遅刻でもしたら大変であつた)。校門で彼は学生の物腰、服装を一人ひとり検閲するのである。挨拶の仕方から、帽子のかぶり具合、洋服・和服の着方まで合格したときにはじめて校舎に上がるのを許されるのであつた。

当時の学生の一人、永山武美(明治41年卒業)は校門での出来事をこのように回想している。「ある朝私が登校してくると、校門に立っておられた校長がいきなり英語で『Good morning. It's fine today (お早う。いい天気だね)』と言われた。私が『Yes』と答えると、『Yesとは何だ。無愛想な! Yes, indeed (本当ですね)ぐらい言え!』と叱られました。私はいま80歳になりますが、今でもこの『indeed』というのが私の頭から離れないのであります。教育とはこのようでなければならぬと思うのです」と。(永山武美といえはまだ知る同窓も多いと思うが、兼寛校長の薫陶を受けた生粋の慈恵人であり、若くして欧米に留学して教授に就任し、晩年には戦後のもっとも困難な時期の学長として本学の復興に大きく貢献した人である)

服装については、そのみだれは品性のみだれであるということであつた。とくに校長の点検は厳しかった。ある学生の記録によるとこんな風であつたという。「服装がみだれていると校長はすぐにその場で直されます。当時は和服ではかまをはいている学生も多かったのですが、みんなの前で裸にされ、本当のふんどしはこういう具合にや

るんだ、ふんどしは三尺よりも六尺の方がよろしい、などと言いながら侍のやり方で締めなおされるのです。きまりが悪いなんて言っちゃいられませんでした。はかまのはき方も、先生はフロックコートか何か立派な洋服を着ておられたのですが、それが汚れるのもかまわず、砂利の上にひざまずいて、口で説明しながらはかまをはかせるのです。へこ帯はこのように結ばなければいけません。はかまの紐は十字に結ばなければいけませんなどと言いながら、事務員と二人で引っ張るのです」と。校長と学生との関係がしのばれて、微笑ましい光景である。

また喫煙は、風紀のみだれであり健康のためにも良くないというので、厳しく禁じられていた。校長に見つかればそれこそ大目玉をくらうのが必定であつた。ある日こっそり喫煙していた学生が校長にみつかつてしまい、しかもびっくりした彼はとっさに逃げてしまった。太鼓腹の老校長はそれを懸命に追うのだが、二人の距離はひらくばかりであつた。ところが生徒がトイレに逃げ込んだのをたしかめた校長は、急いで事務員に椅子を持ってこさせて、トイレの前にどっかと座り込んだのである。閉じこめられた学生はこれにはたまらず、ついに降参してそのまま御用

になったのであつた(まさに文字通りの“雪隠詰”であつた)。校長室で大目玉をくらったのは言うまでもない。

校長と学生との関係といえば、普通はなんとなく無用な鋭さもちがちであるが、これらの話には不思議とそれがみられない。おそらくそれは兼寛にさまざまな意味での学生にたいする愛情があつたからではないだろうか。またどの話にも感ずるのだが、兼寛の言動には何か凛としたおかしみがある。そしてそのおかしみのもととはいえば、これまた学生への愛情の深さからきているように思われる。それがなければ、第三者にとって愛しさとしてのおかしみは感じにくいものだからである。



受賞

【短編アニメ化】忘れられない看護エピソード「黒い食器の魔法」



発行元「日本看護協会」

柏病院看護師福田さんの看護エピソードが 最優秀賞を受賞しました

柏病院の摂食・嚥下看護認定看護師である福田良美さんのエピソードが、日本看護協会が主催する2025年度「忘れられない看護エピソード〜いのちを守り、支えるプロフェッショナル〜」で最優秀賞を受賞しました。この作品は短編アニメとして制作され、YouTubeでどなたでもご覧いただけます。看護のひと場面を描いたエピソードを、ぜひご覧ください。

短編アニメは
こちら



第三病院 新病院特設サイト

2026年1月 東京慈恵会医科大学附属第三病院は、「(仮称)東京慈恵会医科大学西部医療センター」として生まれ変わります。



公開講座のお知らせ

慈恵大学では、患者さんや医療者に
対して、各種講座を開催しています。



Access

第三病院

〒201-8601 東京都柏江市和泉本町4-11-1

☎ 03-3480-1151 (大代表)

Access

京王線 国領駅 (徒歩12分)

京王線 調布駅 (バス10分)

小田急線 柏江駅 (バス10分)

附属病院(本院)

〒105-8471 東京都港区西新橋3-19-18

☎ 0570-03-2222 (ナビダイヤル)

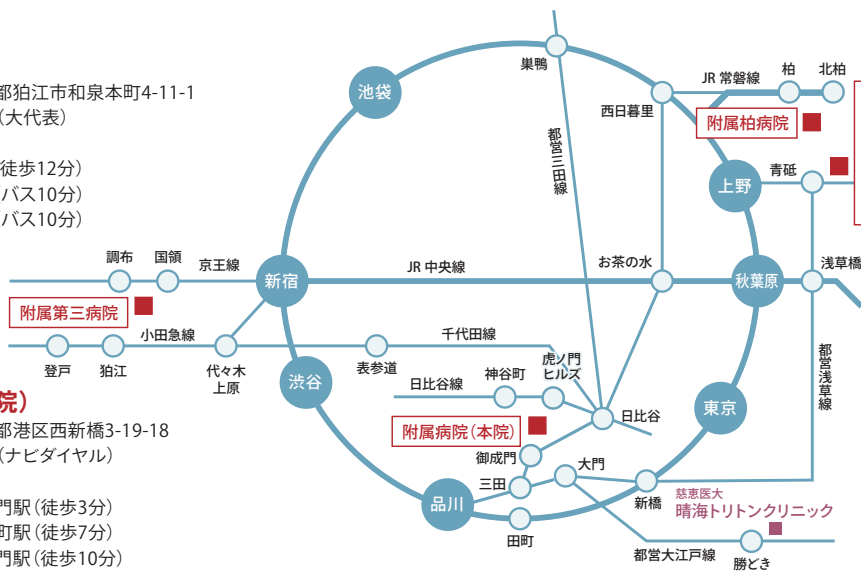
Access

都営三田線 御成門駅 (徒歩3分)

日比谷線 神谷町駅 (徒歩7分)

銀座線 虎ノ門駅 (徒歩10分)

JR・銀座線・都営浅草線 新橋駅 (徒歩12分)



柏病院

〒277-8567 千葉県柏市柏下163番地1

☎ 0570-04-7164 (ナビダイヤル)

Access

JR常磐線 北柏駅

(徒歩10分/バス5分/タクシー5分)

JR常磐線 柏駅

(徒歩25分/バス15分/タクシー10分)

葛飾医療センター

〒125-8506 東京都葛飾区青戸6-41-2

☎ 0570-009-119 (ナビダイヤル)

Access

京成線 青砥駅

(徒歩10分/バス6分/タクシー5分)

JR常磐線 亀有駅

(バス10分/タクシー5分)

